

病院の基本理念

わたしたちは、生命の尊重と、平等な人間愛を基本とします
地域の基幹病院としての自覚をもち、明るく豊かな社会づくりに貢献します

- 一、患者さまの信頼と満足が得られる最善の医療・看護をめざします
- 一、患者さまの必要とする情報の提供につとめます
- 一、患者さまのプライバシー保護に万全をつくします

解説 リスクマネジメント

副院長
石山 剛

医
療
用
語

リスクマネジメントとは、企業においておこりうる災害への防止対策のことです。この危機管理体制によって再発防止をはかり、二度と同じ災害がおこることのないようにすることが、企業には必須とされています。

これは、医療においても同様で、ここ数年、さまざまな医療事故が報道され、手術時の患者取り違え事件以来、遅れていた医療事故への対策が急務とされました。このため院内において、医療事故防止委員会、リスクマネジメント部会(以後部会)を設置し、各部署にリスクマネージャーを配置して、ヒヤリ・ハットを含めた事例の場合は、インシデント・アクシデント・レポートを提出する体制を作りました。この目的は、事故の責任を個人におしつけるのではなく、病院全体の共有財産として評価し、問題点や組織的欠陥の把握を行い、再発防止対策を行い、医療の質の向上をはかり、安心・安全な環境整備をおこなうことにあります。

院内で提出されたレポートの評価・分析をおこない、部会で定期的に報告がなされてますが、まだ、再評価の面で十分でないところもあります。人間は必ずミスをするという前提に立って、医療事故防止対策を策定することが必要と言われてますが、医療は患者様と医療者の共同作業であり、この関係を良好ならしめるためにも十分なインフォームド・コンセントがなされているかを常に念頭において行動して行きたいと考えています。

彫刻・絵画の紹介

ブロンズ像「空」について



無限の空間で躍動する乙女の姿を見ていると、時間が忘れ、希望が湧き、心を癒してくれます。

癒しの環境

絵画など50点近くの作品が外来待合や廊下、病棟食堂などの壁にかけられています。視覚系を通じた癒しの環境づくりをめざし、また一日も早い病氣回復を願う病院の考え方に共鳴いただいた地元有志からなる「癒しの環境委員会」委員長(佐々木信吾先生)より寄贈になったものです。この誌面で作品について紹介してまいります。

関よこのブロンズ像「空」について紹介します。「空」は新製作会所属・日本美術作家協会員小柳力先生の作品です。小柳先生は平成13年3月にお隣の飯島南小学校校長を退職され、現在は製作活動に専念されておられます。主な作品は秋田空港ロビー、秋田駅前広場、秋田南中学校、秋田和洋高校、大森山などに多数あります。また、秋田県彫刻連盟会長として活躍されておられます。

ミニ情報

看護婦士から看護師へ

看護職の「性別による相違をなくす名称の統一」を目的に法改正があり、4月から保健師、助産師、看護師、准看護師に名称を改正しております。

今までの看護婦の「婦」は、女性の持つ柔らかさの印象が強かったと思われま。新しい名称は、その優しさの上に専門職としての使命が加わったものと感じております。

現在、男性の看護師、准看護師は7名、それぞれの部署で大活躍しております。21世紀のふさわしい名称変更でもあり、早く慣れねばと思っております。患者さまからは、現在もほとんど慣れ親しまれた「看護婦さん」と呼ばれて、元気に返事をしています。

ごあいさつ

院長 坂本 哲也



秋田組合総合病院は、安心と信頼の医療を提供することを使命としております。安心と信頼の医療を行うために病院のなかで何が行われているか、皆さまに知っていただきたいと考え、この広報誌を発行することにしました。病院の各部門、高度機器、職員の紹介などを通して当院の医療への取り組みの姿勢を知っていただきたいこと

この度、秋田組合総合病院広報誌「光と風」を発行することになりました。よろしくご愛読をお願いいたします。

秋田組合総合病院は今から70年前、すなわち昭和7年2月に秋田

や、病気の最新の治療法なども定期的に紹介する予定です。

今回はまず医療事故を絶対おこさない取り組みについてご紹介いたします。リスクマネージャーを各部署に配置し(全部で32人が任命されています)、医療事故防止対策委員会を定期的に開催しております。また院内感染対策には特に力を入れており、感染対策医療チームを結成し、院内感染対策委員会と協力して行動しています。ヒヤリ・ハット(医療事故には幸いにならなかつたが、見逃したら医療事故に繋がったと考えられる事例)の自験例を詳しく、そして直ちに報告し職員全員と共有することに、二度と同様のことがおきない環境整備を行います。そのほかにも安全対策をいろいろ行っています。

今後院内でのさまざまな取り組みについてお知らせいたします。この小誌が、地域と病院の交流の場になることを期待しております。よろしく願っています。

部署紹介

No.1

看護部

総師長
柴田 秋子



広報誌「光と風」の創刊にあたり、看護部を紹介できまことを大変嬉しく思います。

病院は移転新築後2年が経過しております。看護部では新病院にふさわしい専門職業人としての器づくりに励んでまいりました。まだまだ目標の達成には遠いのでありますが、地域の皆様のご意見をいただきながら、一步一步ではありますが成長してまいりたいと思っております。よろしくお願い致します。

看護部の基本理念は「地域住民のために病院の方針に従い、専門職業人として常に相手の立場に立った心のかような看護を提供する」とかかげて

であります。現場をあくまでナースとしての責任を大きく感じています。自分自身の知識の習得はもちろんですが、よこの連絡を良くし、患者さまの安心につながる医療が提供できますよう努力してまいります。

病院1階エントランスホール奥に、ナイチンゲール像が置かれています。端正なお顔の瞳は何をみつめておられるのでしょうか。社会や医療界に押し寄せる激変の波は、ともすると私たちの心を暗くします。しかし、そんな今だからこそ原点を思い起こす必要があります。偉大な先輩から受け継いだローソクの灯を消すことなく、いつでも、どんなときでも笑顔で患者さまをお迎えできる看護部であるよう精進してまいります。



こまちホスピタル・ボランティアの会
会長 高橋 忠雄

ボランティアの声

● 3年目を迎えた私たちの活動<その1>

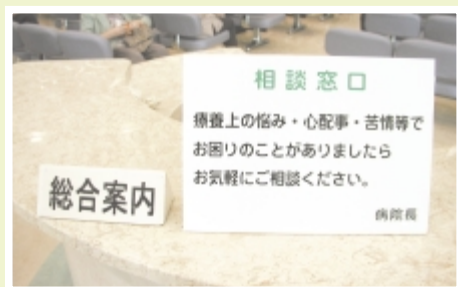
移転新築病院開院と同時にボランティア活動が導入され、私たちの活動も3年目を迎えています。

病院には毎日、外来診察のため多くの患者さんが通院、入院加療中の患者さんも多数おります。また、見舞客や様々な業務で訪問する健康者も来院されます。特に、患者さんは精神的肉体的苦痛と不安を抱え来院していることと考えられます。これらの苦痛と不安を少しでも癒すことができるよう、病院側(診療サイド)と患者側(利用される側・健康者、地域住民)との懸け橋となり、「癒しの場」そして来院した目的がスムーズに達成できるよう、また「よりよい病院づくり」の一助になればと考へながら活動を続けております。

「相談窓口」の案内について

病院1階エントランスホールの総合案内に下記の内容で相談窓口の案内の表示をしております。

患者さまが、気軽に相談できるように相談窓口を案内し、医療サービスをはかっています。ケースワーカーが相談に応じます。



(次号へつづく)

と胸章をつけ活動をしており、私たちの活動の主な内容は、次ぎのとおりです。

- 外来患者(初診・再診)の受付案内及び会計の手助け
 - 入院患者の病棟までの案内と身の回り品などの運搬の手助け
 - 院内各所(検査、放射線など)への案内
 - 車椅子利用者の手助け(特に自家用車乗降時)
 - 新生児用肌着のセットづくり
 - 正面玄関前自動車及び駐車場などの誘導整理
 - エントランスホールなどの整理整頓(車椅子、貼り紙)
- 現在、個人登録者数49名があり、ボランティア活動員相互の親睦、研修、情報交換などを行なうため昨年9月20日に「こまちホスピタル・ボランティアの会」を創り活動をはじめております。活動員は社会貢献をした充実感を感じながら、個々の生活をエンジョイしております。

／ 行 / 事 / 予 / 定 /

6月 8日(土) 第2回 病院祭
午前10時～午後12時30分

- 演奏会 飯島南小学校器楽部
飯島中学校吹奏楽部
午前10時10分～午前11時
- 餅つき 午前11時30分～午後12時30分
- 相談コーナー
血糖測定・血圧測定・医療相談・薬の相談
午前10時～午後12時30分
- 展示コーナー
生花展・お茶会・パネル展・食事相談
介護用品展示 午前10時～午後12時30分
- バザー 午前11時30分～午後12時30分
- JA特産品即売 午前10時～午後12時30分

6月14日(金)	2年目瑕疵検査
6月14日(金)	院友会定期総会
6月20日(木)～21日(金)	第52回 日本病院学会
7月13日(土)	秋田県農村医学会 第97回学術大会
7月24日(水)	病院70周年記念講演会
7月29日(月)～30日(火)	厚生連役付職員研修会(全職)
8月 1日(木)～4日(日)	小児喘息サマーキャンプ
8月26日(月)～28日(水)	厚生連医Ⅲ(看護師)研修会(初級)
8月29日(木)	市保健所立入検査(医療監視)
9月 6日(金)～7日(土)	第25回 秋田県農村医学研修講座

進歩する最新医療

【第1回】MRI(磁気共鳴画像)検査



診療部長 犬上 篤

MRI撮像装置は強力な磁場を作り出す磁石(電磁石、永久磁石)、信号測定のための電波送受信アンテナコイル、電波を変調して位置情報を付加するための磁場用コイルから構成されています。これらによって測定された被検者からの信号がコンピュータ処理されてMR画像が作成されます。

画像診断にはX線撮影(胃の撮影等も含む)、血管撮影、X線CT、超音波、放射性同位元素を用いた検査などがあり、超音波検査を除いては大なり小なり放射線被曝という侵襲を受けます。1980年代初頭に臨床用MRI撮像装置が開発されてからは放射線被曝という侵襲がなく、解剖の教科書のような画像が提供されるようになり、画像診断は飛躍的に進歩しています。特に脳、脊髄、肩、膝、足の検査には抜群の威力を発揮しています。断層像も単なる輪切りだけでなく、縦横斜めと任意の方向の検査が可能で、手術のアプリ



ローチ方向の断層撮影もできます。また造影剤なしで、血管、胆嚢等も描出でき、造影剤アレルギーのある方には向いています。このように低侵襲で、情報量の多いことから近年脳ドックが流行っております。

点があります。第1には、検査は直径約60cm、長さ約1.5mの撮像装置の中で行われますので、閉所恐怖症の方は検査できません。第2には心臓にペースメーカーを使用していると、磁場で機能を失ってしまいますので検査できません。また、脳動脈瘤の手術により金属クリップが入っている方、その他の手術で金属を体内に入れてある方は検査を受けられないことがあります。以上のような注意点がありますが、MRI検査は情報が多く、苦痛の少ない検査です。

編集後記

本誌のタイトル「光と風」は天折した作家、中島敦の作品「光と風と夢」から取りました。中島敦は、虎となつた読書人を描いた「山月記」や「季陵」などで知られている作家です。作品「光と風と夢」は、「宝島」ジキル博士とハイド博士の作者ロバート・ルイス・ステイブンソンが結核を癒したに訪れたサモア島を題材としたもので、同地の光と風、病の回復とともに夢が広がるというイメージが、私たちの病院の広報誌にピッタリではないかと考えて選ばれた訳です。

広報誌を作るという話から編集会議まで、わずか半日。とにかく6月8日の病院祭までに発行するという至上命令ありきで、1週間以内に誌面の形が見え、ひと月足らずで発行にこぎつけようという、猛烈なスピードが要求される場面の連続でした。事務方から技師、ナース、医師に至るまで各広報委員の迅速かつ正確な動きがあったればこそ達成出来たことで、少数ながら精鋭の面々の頼もしさに改めて感服した次第です。また、切時間の迫った原稿を快く引き受けていただいた執筆者の方々、無理を聞いていただいた印刷担当の方々に、お礼申し上げます。

平田 温

広報誌「光と風」の編集は広報委員会で行っております。広報委員は下記のとおりですので、ご協力をお願いします。

委員長: 平田 温 (診療部長)
副委員長: 鎌田さち子 (看護師長)
委員: 小林 孝 (整形外科科長)
小川 秀晴 (放射線主任)
鎌田 京子 (検査主任)
戸田 恭子 (看護副部長)
金 睦子 (看護師)
鈴木 身 (保健福祉課長)
佐藤 勉 (資材課員)

事務局: 企画経理課